

県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻174号 令和元年(2019)10月4日 Vol.50 No.1



青森県立郷土館 令和元年度特別展

ひらく・つくる・みのもる

— 青森の湿地と稲作のはなし —

米づくりの研究に使用された道具が並ぶ展示会場

みなさんこんにちは。現在、郷土館では「湿地」と「稲作」をテーマにした特別展を開催しています。

展示の前半のテーマは「湿地」。湿地には、その成り立ちや植物相の違いによって、さまざまな種類があります。主にミズゴケ類からなる湿原を高層湿原といいます。本州にありながら低地に高層湿原がみられるのは、気候が涼しい北国青森ならではの特徴です。本展では、県内の代表的な湿原を紹介するとともに、そこに生育する動植物の美しい写真や貴重な標本を多数展示しています。

後半のテーマは「稲作」。北国の厳しい環境のなかでの開拓と稲作には、常に困難が伴いました。特に、現在は広大な田園地帯となっている津軽平野の開拓が岩木川の最下流部にまで到達したのは、戦後になってからのことです。河川改修や土地改良と並行して、栽培技術と品種改良に根気強く取り組んだ人々の創意と努力が、冷害にも負けない「藤坂5号」の誕生や、「つがるロマン」「まっしぐら」「青天の霹靂」といった、全国に自慢できるおいしい県産米の生産へと結実しました。

本展では、農業王国・青森のいしずえを築いた、

湿地の開拓と稲作の歴史をふりかえり、自然と人間のあるべき未来を展望します。会場には300点を超える貴重な資料を展示しています。次ページでその一部をご紹介します。

(学芸主査 増田公寧)

ひらく・つくる・みのもる

— 青森の湿地と稲作のはなし —

◇開催期間：9月12日(木)～11月4日(月・祝)

※会期中の休館日なし

◇開館時間：9:00～18:00

◇会場：特別展示室(大ホール)

◇観覧料

○一般 500円(400円)

○高校・大学生 240円(200円)

※()内は20人以上の団体料金。中学生以下は無料。障がいのある方は観覧料免除。上記金額で常設展示もご覧になれます。

関連行事【講演】

「新しい酒造好適米吟鳥帽子とその酒造り」

◇開催日：10月26日(土) 13:30～15:00

◇講師：八戸酒造(株) 杜氏 駒井伸介氏

展示のみどころ【第1部 青森の湿地】

ツルコケモモ（自然分野）

ツルコケモモはミズゴケ類に被さるように生育する可憐な湿原の花です。おそらく、最終氷期には到る所に繁茂していたと思われますが、現在では八甲田山のような高地や、偶然に残された中間湿原や高層湿原のみに見られ、「氷河時代の生き残り」と言える植物です。



ツルコケモモ

下駄（考古分野）

平安時代の青森に暮らしていた蝦夷（エミシ）とよばれる人びとは、広大な湿地であった津軽平野を水田に変えていった開拓者でした。五所川原市十三盛遺跡では、エミシたちが履いた下駄が出土しています。現代の下駄と異なるのは、ヒバ製であること、そして鼻緒をすげる穴が台の一方に寄っていることです。右の写真は左足用で、長さは25.8cm。



エミシの下駄

加藤武夫の多色木版画（美術分野）

青森市出身の版画家・加藤武夫（1930-2012年）が制作した青森県内の湿地風景と、田園風景の多色木版画の作品を展示しています。「八甲田の春」は、八甲田山の湿原の雪解けの水の中に清楚に咲く水芭蕉を色鮮やかに表現しています。



加藤武夫「八甲田の春」

展示のみどころ【第2部 開拓と稲作】

豊富新田絵図（歴史分野）

弘前藩は、嘉永5（1852）年から十三湖南岸近くの岩木川と山田川の間位置する千貫崎（現つがる市車力町）で大規模な新田開発を行いました。このとき造られた村は「豊富村」と名付けられ、開発は安政3（1856）年に完了しました。この図では、短冊形に整然と区画された地割がなされ、それぞれの区画には耕作者の名前が記されています。



豊富新田絵図

スイコ様（民俗分野）

青森県各地では、水難事故が発生するとカッパやメドツのせいだと恐れられました。津軽地方の人々は、それを鎮めるため、水神様であるスイコ（水虎）様を祀りました。毎年7月20日がスイコ様の宵宮であり、スイコ様の好物のキュウリなどが供えられます。



スイコ様（つがる市木造大畑）

「藤坂5号」と田中稔（先人分野）

寒さに強いイネ「藤坂5号」と、その開発に挑んだ田中稔（1902～1993年）を紹介。田中は昭和10（1935）年に凶作冷害防止試験地（現十和田市）に赴任、冷害に苦しむ農家を救うため地道な研究を続け、耐冷品種「藤坂5号」を生み出しました。「藤坂5号」の長所はその後多くの品種に受け継がれ、田中は、長く県農業試験場長をつとめ農業技術の向上に力を尽くしました。



藤坂5号県内1万町歩普及記念扇子

品種改良（産業・教育普及分野）

日本人の主食である大切な米を実らせるイネ。病気や天候の影響に強く、食べておいしい米の安定的な収穫を目指し、多くの先人たちがその開発に努力してきました。県産業技術センターにおいてイネの品種改良・研究で活躍した数々の道具や標本を元にその歴史を振り返ります。



倉本ワールドを堪能 ～倉本聰の点描画展～

7月13日（土）から8月25日（日）まで、「森のささやきが聞こえますか」倉本聰の仕事と点描画展が開催されました。第一会場の大ホールには、脚本家・倉本聰さんがライフワークとして描き続けてきた点描画約120点を展示。点の集合で描かれた繊細かつ大胆な作品と、その作品ひとつひとつに添えられた倉本さんの“つぶやき”が多くの来場者を楽しませていました。

第二会場では、脚本家としての倉本さんの仕事を紹介。名作「北の国から」が完成するまでの過程や、登場人物の詳細な人物設定、ドラマの撮影セットの再現など、「北の国から」の世界を存分に楽しむことができる展示となっていました。

また、物販コーナーも充実。オリジナルのポストカードやクリアファイルなどの定番グッズはもちろん、「北の国から」の主人公、黒板五郎のジャンパーや帽子、軍手といった「五郎さんなりきりグッズ」も販売され、人気を集めていました。

そして、開幕初日の7月13日（土）には、倉本聰さんご本人によるギャラリートークが開催されました。「木にも感情がある」と話す倉本さん。前日に訪れた深浦町の大イチョウをスケッチした際には、「大イチョウの声を聞いたけど、津軽弁だったから何を言っているのかわからなかった」と話し、訪れた約200人の観客を沸かせました。

(TTHAグループ 櫻庭友輔)



来場者で賑わう展示会初日の第一会場



ドラマで使われた衣装や小道具が並ぶ第二会場

元気いっぱいの高校生たちと郷土館をPR

8月2日（金）、7日（水）の2日間、青森港に寄港する大型クルーズ客船の外国人を中心とした観光客に対して、青森南高等学校の生徒の皆さんの協力のもと、誘客・歓迎活動を行いました。

当日は、館外で郷土館PRチラシを配布する誘客活動と、実際に来館されたお客様に対する歓迎活動を行う2グループに分かれて活動しました。

誘客活動では、青森港国際クルーズターミナル（2日）と青森駅西口周辺（7日）において、シャトルバスから下車した観光客に英語で話しかけ、チラシを配りました。両日とも非常に暑かったのですが、生徒の皆さんが明るく積極的に活動に取り組んでくれたので、はつらつとしたその姿に後押しされ、PRを十分に行うことができました。

一方、歓迎活動では、館内のエントランスホールや展示室入口などで、お客様への歓迎の挨拶や順路の案内などを行いました。生徒の皆さんも最初は緊張のあまり言葉少なめでしたが、徐々に慣れるにつれ、進んでお客様に歩み寄り、会話を楽しみながらコミュニケーションを取るようになりました。お客様も高校生のおもてなしの気持ちのこもった清々しい挨拶や、丁寧な案内に気分を良くされ、満足した様子で展示を観覧されていました。

今回の活動を通して、高校生の皆さんは自分の持つ能力を十分に発揮するとともに、言語力やコミュニケーション力を向上させることができたと思います。また、大型クルーズ客船で来青した外国人観光客で、実際に当館に来館された方の人数は昨年度より増える結果となりました。観覧を終えた際にはアンケートにも協力していただいたので、来年度以降の当館の活動や事業に役立てていきます。

(研究主査 滝本敦)



外国人観光客にチラシを手渡す高校生

土 曜 セ ミ ナ ー

当館の職員、ゲストキュレーター(客員学芸員)、特別講師が郷土の歴史や文化、自然などについて楽しく、わかりやすくお話しする講座です。土曜日に開催し、どなたでも受講できます。また、当セミナーは「あおもり県民カレッジ」の単位取得講座(1回2単位)となっています。



期日	テーマ	講師	
10月	5日 津軽半島七里長浜のおいたち	川村 眞一	G
	12日 車力で見えた驚きの自然 ～30年前を振り返る～	太田 正文	学芸
	19日 考古資料と保存科学	白鳥 文雄	G
	26日 新しい酒造好適米吟烏帽子とその酒造り	八戸酒造株式会社 駒井 伸介	特別
11月	2日 十腰内文化とは	成田 滋彦	G
	9日 青森のねぶたと弘前のねぶた	成田 敏	G
	16日 青函の交通史	佐藤 良宣	学芸
	23日 小惑星探査機「はやぶさ」1号機から2号機への歩み	成田 徹	G
	30日 色彩の版画家「加藤武夫」の版画で巡る青森県	中村 理香	学芸
12月	7日 特別講演 北海道・北東北の縄文遺跡群 その価値と魅力	早稲田大学名誉教授 菊池 徹夫	特別
	14日 りんごと馬の歴史をひもとく～りんごの意外な側面と馬がいた時代を知る～	中園 裕	G
	21日 弥生時代以降における「津軽海峡文化圏」とは	根岸 洋	G
	28日 亀ヶ岡文化から弥生文化へ	岡本 洋	学芸
1月	4日 お正月の獅子舞	古川 実	学芸
	11日 縄文人の編んだもの ～編組製品いろいろ～	杉野森 淳子	学芸
	18日 特別講座 あおもりの達人③「あけび蔓細工の魅力」(ワークショップ)	竹内 啓子	特別
	25日 特別講演 大平山元遺跡群のこれから	外ヶ浜町教育委員会 駒田 透	特別
2月	1日 青森県のアイヌ文化とアイヌ地名	福田 友之	G
	8日 自然史の先人たちシリーズ	山内 智	G
	15日 岩木山への祈り	小山 隆秀	学芸
	22日 青森県の鳥瞰図	滝本 敦	学芸
	29日 縄文遺跡群の保存と活用	一町田 工	G
3月	7日 学校では教えてくれない青森県のあんなこと、こんなこと	福士 道太	学芸

※学芸…当館学芸課員 G…当館ゲストキュレーター 特別…特別講師

時間:13:30～15:00 会場:当館小ホール 受講料:無料 受付:当日(事前申込み不要)
※1月18日実施の特別講座は当日12:00から先着順に整理券を配布します。(定員20名)

